

い都邑であることを、言を盡くしてたゞへてゐる。町の中も美しいし、これを海から眺めても美しい、どこからどう見ても美しい。世界中こんな美しい都邑はどこにもあるまいとまで賞讃してゐる。そして都邑としての文化施設の完備してゐることを簡略に附加へ、港として世界の文化は此處を通つてブラジル全國に輸入されることも言外に含めてある。

卷三の最後に置いた此の一篇は、ブラジルに生活するもの誰もが承知してゐなければならぬ重大な事からを學習する意味に於て、まことにふさはしいものである。

此の一篇の中心思想は、美しい首府としてのリオ、デ、ジャネイロを畫出した點にある。後尾に附加した世界的都市としての記述は、むしろ美しさに對する一點描と見てもよい。

全卷を通じて、唯一つの説明的な文章として、指導者は首府リオ、デ、ジャネイロが如何なる中心思想の下に表現されてゐるかに注意することが肝要であらう。

二、構想

美しい町リオ、デ、ジャネイロ市を二段にわけて説明してある。第一段(百三十六頁七行から百三十八頁八行まで)はブラジル國の首府であること、町も山も海もまるで繪のやうに美しく、夜、沖から眺めた景色はまるで龍宮のやうであることなどが記してある。即ち美しいことで一貫してゐる。第二段(百三十九頁一行から七行まで)は港として發展してゐる。リオ、デ、ジャネイロ、教育方面の面目、日本大使館の所在など人文地理の上から此の町を記してある。つまり教材は、人文的に又地方的に發展したる首府の美しさを兩段に分けて記してゐるのである。

三、語句意

○「首府」は、その國の統治者の居住せらるゝ町である。○「どこへ行つてもない」は、強い言ひまはしであつて、こゝでは、「一番美しい」といふ意である。「世界中どこへ行つても、これほど美しい町はほかにはない、こゝが世界中で一番美しい町である。」といふ意である。○「行つても」は、行つてみてもの意。○「これほど」は、これ位、このやうに、こんなのに意。○「といふことです」……と人々がさう言つてゐる、私はさう聞いてゐる」の意である。○「じつさい」は、ほんたうにの意。○「は」は、一つを取出して特に言ふ語。○「も」は並列の意をもつ助詞。○「美しく」を略さずに「町も」「山も」「海も」の下に一々つけてゐるのは美しさを強調してゐるので、普通なら「町も、山も、海も美しく」とすべき所。○「まるで畫のようです」は、美しさの容的な言方である。○「ことに」は、とりわけの意。○「沖」は、岸から離れた海を、岸から言ふ語。○「濱べ」は、海岸の意。○「きら／＼」は、美しく光り輝く意。○「さま」はやうす。○「ちやうど……のよう」は比喩の一般形式である。○「美しい町」「美しい所」「町も美しく」「山も美しく」「海も美しく」「美しいのは……の景色です」などは直接的な言方で、ことに「世界中どこへ行つてもこれほど美しい町はない」などは、最上級の美しさを表現してゐる。間接的には、「すべてがまるで畫のようです」「ちやうど龍宮のようです」などと言ひ、直接的に、間接的に、あらゆる言ひまはしを巧みに使つて、町の美しさを言表はしてゐる。簡単に言へば、「リオ、デ、ジャネイロは、ブラジルの首府で美しい所だ」となつてしまふところである。○「港としても」は、首府として名高く、美しさでも名高いが、又港としても名高いといふ心持があらはれてゐる。○「國々」は、どの國もどの國もの意。○「常に」は、いつでもの意。○「出入りし」は、出入り入つたりしての意。○「それら」は、世界の國々をさす。○「ひらく」は、うすいものが風にひるがへる

さま。○「国旗」は、國をあらはす旗の意。○「こゝ」は、リオデ、ジャネイロ市をさす。○「大學を始とし」は、「いろいろ」な學校や文化的設備があるが、先づ第一に大學といふ意。「大學」は、最高の學府の意。○「役所」は公の事務を執る場所をいふ。即ち、市役所とか、税關とか、國務を執る官廳などをいふ。○「大使館」は、大使の事務を執る所である。「大使」は、その國の全權を委任されて他國へ使する人をいふ。○「も」は並列の「も」である。

四、文字

「世界中」「沖の方」「船」「常に」「居ます。」「役所」

【要旨】

読みを通してリオ、デ、ジャネイロは、ブラジル國の首府であること、美しい町であること、文化的施設の完備してゐることなどを理會させると共に、新字の読み書きを授ける。

【教授事項】

- 一、ブラジルの首府リオ、デ、ジャネイロ市概説、
- 二、(一)首府である。(二)美しい町である。(三)活潑な港である。文化的都市である。日本大使館がある町である。

- 三、「どこへ行って……はない」「じっさい」「まるで……のよう」「ことに」「……さまは、ちょうど……のよう」「ひるがへる」「……を始として」「大使館」等の語句意。
- 四、「世」「界」「中」「沖」「船」「常」「居ます」「役」の読み書き。

五、朗讀練習。

【修練】

- 一、次の文を聽寫させて讀ませる。
○どこへ行って、あなたのうちほど、しづかな所はないでせう。○じっさい、いゝ所ですよ。一ぺんいらっしやいませんか。○でんとうの光で、まるでひるまのようです。○五六十きのひこうきが、れつをくんで、やって来るのを遠くから見ると、まるでかがとんでゐるようです。○日の丸のはたが、朝風にひるがへてゐます。○おとうさまをはじめとして小さい妹まで、そろって出かけたのです。
- 二、次の語句の読み書き。
○世けん。○サンパウロの沖。○沖の小舟。○學校中の喜びよう。○あなたは今どこにすんで居ますか。○役人。
○世界の國々の船。○常に忘れない。

【教授上の注意】

- 一、リオ、デ、ジャネイロ市の地圖。繪葉書・繪畫並びにブラジル全圖等を用意する。
- 二、挿畫についての話をさせてから、教材を讀ませる。
- 三、説明は、特に斷續に注意して明確に朗讀させることが大切である。
- 四、自分の村や町の概略を説明する文を續らせて見るのもよい。

平假名音圖

【教材】

百四十頁から百四十一頁まで。

【教材解指導上の注意】

平假名音圖として、五十音濁音・半濁音・いろは歌が、百四十頁・百四十一頁に表示されてゐる。縦横に読みを練習し、暗誦・暗寫する迄に至らしめたい。一音一音の間は少し間をおいて讀ませることを望む。

いろは歌は、古來假名手本として廣く行はれてゐる今様歌である。この歌の作者は空海だといはれてゐるが、はつきりしてゐない。この意味は、涅槃經聖行品中の四句の偈をとつたものである。左に偈と歌とを比較しよう。

諸行無常 色は匂へど散りぬるを

是生滅法 我が世誰ぞ常ならむ

生滅滅已 有爲の奥山今日超えて

寂滅爲樂 淺き夢見じ酔ひもせず

音圖として讀ませる場合は、從來のやうに、「いろはにほへと ちりぬるをわか よたれそつねならむうゐのおくやまけふこえて あさきゆめみし ゑひもせず ん」よ讀ませてよい。

漢字

百四十二頁から百四十三頁まで。

【教授上の注意】

一、字形や字劃・部首等に類別させ、字典の如く整理させる。その間に於て、漢字の認識を確實にし、しかも漢字に對する興味を起させたい。

二、漢字カードを作成して、これによつて整理させることが最も有效である。

日本語讀本教授參考書 卷二 終

昭和十二年八月十一日印刷
昭和十二年八月十六日發行

日本語讀本教授參考書卷三

(非賣品)

著作兼發行者

ブラジル日本人教育普及會

東京市牛込區山吹町一九八

印刷人 櫻井專吉

東京市牛込區山吹町一九八

印刷所 高瀬印刷所

著作權
所有

(MADE IN JAPAN)

263
529

終